

原稿募集

一般社団法人 軽金属溶接協会では、機関誌「軽金属溶接」の内容の充実を図るべく、会員皆さまからの積極的な投稿をお待ちしております。

内容は、「論文」、「解説」、「技術報告」、「報告」、「随想」や各種「紹介記事」など多岐に渡りお受けできますのでお気軽にご相談下さい。当会から投稿のご依頼とともに執筆要綱をお送りいたします。

なお、投稿のご案内については「軽金属溶接」目次の裏側にも載せておりますのでご覧下さい。

原稿の送付およびお問い合わせ先は下記へお願いいたします。

一般社団法人 軽金属溶接協会

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 4 丁目 20 番地 溶接会館 6F

電話 03(3863)5545 FAX 03(3864)8707

E-mail jlwa@nifty.com

また、「論文」を対象として、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の J-STAGE で電子版を 2012 年春から公開しています（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jlwa>）ので、ご活用下さい。当会ホームページからもリンクでアクセスできます。なお、順次逆のぼつての電子化も推進中です。

軽金属溶接協会誌「軽金属溶接」投稿ご案内

本誌への投稿要領は次のとおりです。ふるってご投稿下さい。

1. 投稿資格

- a) 団体会員の事業所に所属する者
- b) 個人会員

ただし、連名者は上記 a), b) 以外の者でも差し支えない。また、編集委員会から依頼した場合（展望、解説、講座、随想、紀行など）は、この限りではない。

2. 原稿の種類

- a) 論文：軽金属並びに軽量構造材料の溶接及び構造（物）に関する研究、実験結果で、独創性、創造性に富むものとし、かつ学術的に価値のある事実や結論を含むもの。研究報告会等で発表したものは、その報告学会名等（当会には拘らない）と年月日を記すること。

論文は、英文でも投稿できる。

- b) 解説、技術報告、報告など技術資料：軽金属の溶接及び構造（物）に関する新しい技術や経験をまとめたもの。

- c) 研究室紹介、施設紹介：軽金属の溶接及び構造（物）に関する研究や試験、または教育を行っている機関、団体の紹介記事であり、組織、構成、施設及び活動内容などをまとめたもの。

- d) その他：軽金属の溶接及び構造（物）に関する随想、製品紹介など。

3. 原稿の構成と長さ

- a) 論文：刷上り 8 ページ以下とし、和英両文の題目・著者名（所属名を含む）、200 語以内の英文概要及び和文本文からなる。

- b) 解説、技術報告、報告など技術資料：刷上り 8 ページ以下とし、和英両文の題目・著者名（所属名を

含む）及び和文本文からなる。

- c) 研究室紹介、施設紹介：刷上り 4 ページ以下とし、和英両文の題目・著者名（所属名を含む）及び和文本文からなる。

- d) その他（随想、製品紹介など）：刷上り 1～2 ページとし、和文の題目・著者名（所属名を含む）及び和文本文からなる。

4. 原稿執筆要領

当会から送付された執筆要綱に従い原稿を作成する。

5. 原稿の採否

論文については査読委員により査読され、その答申に基づいて編集委員会で採否を決定する。

6. 別刷

別刷（有料）を希望する場合は原稿提出時又は著者校正時に申し出る。印刷後の別刷はできない。

論文については著者に別刷 50 部を贈呈する。50 部を超える分については有償とする。

7. 原稿提出先

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 4-20

溶接会館 6 階

一般社団法人 軽金属溶接協会 編集委員会

TEL : 03-3863-5545 FAX : 03-3864-8707

E-mail : jlwa@nifty.com

軽金属溶接別刷り価格表（消費税込）

（円）

ページ	部数					
	50	100	150	200	250	300
4 以内	2,850	4,150	4,430	4,700	4,910	5,180
5～6	3,670	5,560	5,940	6,370	6,800	7,170
7～8	4,210	6,210	6,690	7,120	7,560	7,990

軽金属溶接協会「軽金属溶接」執筆要綱

1. 原稿及び投稿

「軽金属溶接」の原稿としては、論文・解説・技術報告・報告・随想及び各種紹介記事等を対象とする。

原稿は、パソコンを用いて作成し、電子メールによる投稿すること推奨する。電子ファイルに書き込んだCD-ROM, フラッシュメモリ等による投稿でも良い。

なお、使用ソフトは、原則としてWord, Excel, Power Point 等とする。

投稿の際には電子ファイルのほかに、原則としてプリント原稿を一部添付し、本会へ送付する。

なお、原稿用紙での投稿を希望する場合、本会所定の原稿用紙(25字×16行)を本会から提供する。

2. 文章の書き方

原稿は、A4判、横書きで、原則として、文字の大きさは10.5ポイント、文字種は本文がMS明朝(日本語)とCentury(英文)、表題はMSゴシック(日本語)とArial(英文)とし、文字数は43字×36行×1段組、又は20字×36行×2段組(上下左右余白は25mm)とする。

3. 用字と用語

漢字及びその使い方は、原則として常用漢字表による。かな書きで分かりにくい場合は、常用漢字以外の漢字を用いてもよい。また、読みにくい場合はルビを振る。

かなは、ひらがなを用いる。外来語及び外国語は、カタカナ又は原文を用いる。専門用語は、原則として日本工業規格の用語及び文部省制定の学術用語を用いる。

4. 数量の単位

数量の単位は、原則としてSI単位系とする。論文以外では、従来の単位系を用いてもよいが、同一原稿ではいずれかの単位系に統一する(併記するのは差し支えない)。

5. 題目及び著者名等

題目と著者名は和英両文で書く。

所属は、原稿用紙の下部を横線で区切り和英両文で書く。著者が数名で所属の異なる場合は、氏名の末尾及び所属の頭にアスタリスク(*, **, ***, ...)をつけて区分する。

6. 概要

論文の場合、およそ200語以内の英文概要を記載することを必須とする。

また5語程度のキーワードを付す。

7. 原稿の長さ

概要、図表、写真など一切を含めて、原則として刷上り8ページ(本執筆要領に基づく原稿では12ページ相当)以下とする。

刷上りの1ページは、原則として26字×49行×2段(日本語)である。題目、著者名はおよそ20行、図及び写真は左右80mmに縮尺したとき、説明を含めておよそ15行程度である。

8. 章、節の書き方

ポイント・システムによる。(例 1. 1.1 1.1.1)

9. 図、写真、表

図及び写真は、原則的にFig., 表はTableとし、通し番号で表示する(本文中に引用する場合も同じ)。論文では、図・表の説明及びその中の文字は英文とする。

Fig. 及びTableは、原稿の末尾に一括してまとめ、本文中の右余白に挿入場所を明記する。

提出する図原稿は、パソコン又は墨書きによる作図を原則とする。図原稿のサイズについては、特に規定しないが、刷り上り2段組の最大幅80mm又は1段組最大幅170mmである。図中の文字サイズは、刷り上り7~9ポイント(約2mm)とする。

写真は鮮明なものを使用し、顕微鏡写真にはスケールバーを明記する。

なお、電子投稿の場合でも、図面及び図面中の文字は、原則として修正しない。

軽金属溶接協会「軽金属溶接」執筆要綱

10. 脚注

備考、付記、著者、所属名等、注の類は脚注とし、ページごとにアスタリスクで表す。

11. 参考文献

本文の末尾に参考文献としてまとめて記して、本文中で引用する場合は、引用番号の数字を「上つき片かっこ」で該当文章の右肩に付す。参考文献の記載方法については、雑誌の場合は著者氏名：題目、誌名、巻一號（発行年）、ページの順に、単行本の場合は著者名：書名、発行所、（発行年）、ページの順に記す。

（例）

- 1) 竹本正, 松縄朗, 渋谷季弘: Mg 含有アルミニウム合金の非腐食性フラックスとの反応及びろう付性, 溶接学会論文集, 15-2 (1997), 241-246.
- 2) L. A. Guitterez, G. Neye and E. Zschech: Microstructure, hardness profile and tensile strength in welds of AA6013 T6 extrusions, *Welding J.*, 75-4(1996), 115s-121s.
- 3) 竹内勝治: アルミニウム合金の疲労強度, 軽金属溶接構造協会, (1990), 119.

12. 顔写真の掲載

論文、解説、技術報告及び随想については、原則として執筆者の顔写真を掲載する。

その要領は以下とする。

- 提出方法 : 写真またはデジタル写真
郵送または電子メール、CD-ROM,
フラッシュメモリ等で送付
- 写真サイズ : 横 30 mm × 縦 40 mm 程度
- 写真枚数 : 各自 1 枚
- 姿 : 胸から上の上半身(無帽、無背景)

13. 査読

論文投稿を希望する場合は、査読を行う。

なお、査読による修正意見書に対して異議を申し立てることができる。その場合は、異議理由を明記する。

14. 外国語での論文投稿

用いる言語は英語とする。それ以外の外国語では投

稿できない。

本文に先立って、題目、著者名、アブストラクト(およそ 200 語以内)、キーワードをこの順に記す。いずれも簡潔な表現とし、執筆に関する注意事項等は、基本的に和文と同じとする。

A4用紙に1頁を108ストローク×36行(21ワード×36行)で記入する。刷り上りはA4判とし、1頁の標準語数は760ワードとする。

15. カラー掲載

掲載は、モノクロを原則とするが、特に要望があれば、カラー掲載も可能とする。カラー掲載の費用は、新年号グラビアを除き、原則として投稿者負担とする。

16. その他

ローマ字の大文字又は小文字、イタリッタ体、ゴシック体、ギリシャ文字などの字体の指定は、特にまぎらわしいとき、著者が赤鉛筆などで指定する。

(改定 平成 23 年 4 月 1 日)